県アンサンブルコンテスト みんなでつかんだ 栄光の 金賞

普代中吹奏楽部

喜びの声

1年　藤島優佳さん

練習してきた成果が出せてよかったです。目標を達成するためには、あきらめないことが大切なんだなぁと思いました。

この金賞が最後じゃなくて、もっともっと自分たちの結果を残し次につなげたいです。いろんな面で支えてくれた皆さんに感謝します。

1年　太田佳緒里さん

2年　金田香菜美さん

この金賞は自分たちだけで取ったのではなく、協力し、応援してくださった皆さんの金賞でもあると思います。大切にしていきたいです。

お金の面でも練習の面でも迷惑をかけている親や父母会の皆さん、先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。頑張れたのは皆さんのおかげです。

2年　羽場ななみさん

2年　大上　真弥さん

残念ながら東北大会には行けなかったけど、悔しくはありません。みんなで頑張って金賞を目指し、目標を達成できたことがうれしかったです。

今までどれだけ練習したか分かりません。県で金賞を取ることを目標にみんなで頑張ってきました。みんながいたからこそとれた金。本当にうれしいです。

2年　源田　晴菜さん

2年　澤田奈津季さん

「プログラム1番…ゴールド金賞」。この瞬間、理性が飛び、人目を気にせず叫んでいました。とてもうれしかったです。最高の感動でした。

「一音通天（いちおんつうてん）」の思い

～心に響く、美しい調べを奏でるために～

木管楽器や金管楽器、打楽器などの種類に分かれて、3人から8人のメンバーで合奏し、美しい調べを競う全日本アンサンブルコンテスト岩手県大会が1月17日、一関文化センターで開かれました。久慈地区大会を1位通過し、大会に臨んだ普代中学校吹奏楽部（澤田奈津季部長、部員7人）は打楽器七重奏で出場し、悲願の「金賞」を受賞。同校に新たな歴史の1ページを刻みました。昨年は銅賞だった県大会。「今年こそは絶対に金賞を取ってやる。7人ならやれる」。そんな彼女たちの胸にあった言葉は「一音通天」。

みんなが一つ一つの音を心を込めて奏でれば、天に通じるほどの感動を生むことができる。

この思いを胸に、彼女たちはプレッシャーと戦いながら、自分たちの可能性を信じて、顧問の齋藤ルミ子先生とともに、約4カ月間、一歩一歩壁を乗り越えてきました。7人が心ひとつにしてかなえた夢。そして彼女たちが吹奏楽を通して学んだ大切なこととは…。

普代中に新たな歴史を刻む

県大会にはそれぞれの地区予選を勝ち抜いた51チームが出場。普代中吹奏楽部は12月21日に行われた久慈地区大会を1位通過し、打楽器七重奏で県大会のステージに挑みました。そして、並み居る強豪校を抑え、見事4位の金賞をつかみました。審査員からは「表情豊かな演奏」「音楽的な流れにメリハリがある」と高い評価を受けました。

「ポリペタルⅡ」という壮大な曲でメンバー7人は約4カ月間、顧問の齋藤ルミ子先生とともに「県大会での金賞」を目指して、練習に没頭。しかし、練習の厳しさやプレッシャーに押しつぶされそうになり、1度は目標をあきらめたこともありましたが、挫折しながらも一歩一歩壁を乗り越えて夢をかなえました。

県大会での金賞は、同校では初の快挙。新たな歴史の1ページを彼女たちは刻んだのです。

7人で頑張れたことが幸せ

大会を終えて澤田部長は次のように感想をつづっています。

当日までの道のりは決して優しいものではありませんでした。厳しく、つらく、険しいものでした。そのつらさに、途中投げ出したくなり、もうやめたいと思ったとき、支えになったのは齋藤先生の言葉でした。『今まで精いっぱい頑張ってきたこの数ヶ月は何だったの、本当につらくてだめになっていないのに投げ出すのは間違っていると思う』。この言葉は私の心に強く響きました。

何で自分の夢を投げ出そうなどと思ったのだろう。もうそこには弱気な自分はいませんでした。絶対に金賞を取ってやる。7人ならやれる。本番前、緊張しながらみんなで思いを共有しました。そして、ステージへ胸を張り歩き出しました。まぶしい照明も心地よく感じました。

そして短い5分間が終わりました。結果は「普代中学校…ゴールド金賞」。私たちは達成感とうれしさをかかえ、一関を後にしました。

自分の夢が達成できたこともそうですが、7人で頑張れたことが一番の幸せです。

彼女たちが吹奏楽を通して学んだことは、「豊かな心」

吹奏楽部の7人の彼女たちは、常にあきらめず、自分自身と向き合いながら、壁を乗り越えてきました。彼女たちのこれまでの努力と、顧問の齋藤先生の厳しくも愛のある指導、大会まで体調管理などに気を付け、陰ながら祈る思いでわが子を見守ってきた保護者の協力、これらが一つになり「金賞」という夢は現実になったのです。そしてそれは一生忘れられない宝物になりました。

彼女たちの喜びの言葉には、常に保護者や先生方、協力してくれた多くの人への「感謝の気持ち」と「仲間との信頼関係」がみえました。

私たち大人も常に持たなければならない「感謝の気持ち」「他人への思いやり」を生徒たちは吹奏楽を通して、学んできたのです。今回、彼女たちが得たものは、金賞以上に人として大切な「豊かな心」だったのではないでしょうか。

「一音通天」。自分たちで考え目標にしてきたこの言葉と、感謝の思いをそれぞれの楽器に重ね、今日も7人は真剣に吹奏楽に向き合います。新たな夢をかなえるために、そして皆の心に響く美しい調べを奏でるために…。

久慈地区大会の様子

「ピンチはチャンス！」

吹奏楽部顧問
齋藤ルミ子教諭

生徒たちが夢を持ち続け、自己実現していくには、ますます厳しい世の中になっています。将来、夢破れ、挫折を経験することもきっとあるかと思います。でも、どんな苦境も「命」さえあれば乗り越えるチャンスがあるはずです。新たな次の夢や目標に向かって生きていけると思います。「ピンチをチャンス」に変えていける「たくましさ」と「知恵」を身に付けてほしいと願っています。そんな思いを胸に、これからも生徒たちの「無限の可能性」を信じ、「真剣勝負」で向き合い共に頑張っていきたいです。